

ファルコバイオシステムズ(コード 4671 東証・大証1部)

業績推移(連結) (予想数値は会社発表分) 配当性向は連結ベース。単位・百万円、%、円

決算期	売上高		経常利益		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率		伸び率	純利益	配当		
08.3: 第2Q	18,059	+6.7	312	-49.7	2.1	10.0	476.2	1.7
09.3: 第2Q	18,968	+5.0	575	+84.3	-	10.0	-	3.0
08.9	37,461	+6.7	853	-36.3	9.5	20.0	210.5	2.3
09.9(予)	39,700	+6.0	1,100	+29.0	27.3	20.0	73.3	2.8

臨床検査受託の大手、顧客数で業界屈指

特色...血液検査など臨床検査受託業の大手。関東、東海・北陸から九州・沖縄までの各都府県を営業エリアに、取引顧客は医療機関約18,000施設、企業約1,500社で国内屈指。京都府久御山町の総合研究所を中核ラボに、6カ所の基幹ラボ、25カ所の地域ラボ、62カ所の営業所、約900台の営業集配車を擁し、きめ細かい検査受託体制を構築。地方の臨床検査会社や調剤薬局のM&A(企業の買収・合併)などで規模を拡大している。

今期の第2四半期は2ケタ経常増益に

増収効果でコスト増を吸収...09年9月期の第2四半期(08年9月21日~09年3月20日)は、売上高が前年同期比5.0%増となり、経常利益は同84.3%増と大きく伸長。主力の臨床検査事業の売上増などが利益回復に結びつき、大幅増益となった。セグメント別売上高は、臨床検査事業および周辺事業:126億8,500万円(前年同期比3.2%増)、調剤薬局事業:62億8,200万円(同8.9%増)。臨床検査事業および周辺事業において、臨床検査事業ではアレルギー検査など販売促進項目の受託強化や一般検査の拡販が進み、検体数は同3.1%増となった。周辺事業では、「日医標準レセプトソフト(ORCA)」や食品・環境検査などが売上増に貢献。また、調剤薬局事業では店舗のスクラップアンドビルドを進め、開局1店、閉局1店を実施した結果、第2四半期末の店舗数は78店となった。一方、設備の償却が進んだことに伴う減価償却費の低減などにより、第1四半期(08年9月21日~12月20日)に生じた容器などの消耗品、検体集配にかかる費用などの増加を吸収。売上高営業利益率は3.1%(前年同期:2.3%)に上昇した。

09年9月期は13期連続増収、経常利益も増加へ

通期も増収増益見通し...09年9月期の通期は、13期連続の増収見込みで、研究所の償却コスト削減も貢献して経常利益が2期ぶりに増加に転じ、2ケタの伸び率となりそう。セグメント別売上高予想は、臨床検査事業および周辺事業:271億円(08年9月期比4.9%増)、調剤薬局事業:126億円(同8.3%増)。臨床検査事業および周辺事業では、診療所向け電子カルテ「@home Dr.」(アットホーム・ドクター)の販売を開始しているほか、遺伝子事業では、ヒト遺伝子検査について全国展開を進めることで遺伝カウンセリング体制を持つ施設を中心に遺伝子検査実施契約先を30施設に増やす方向。また、調剤薬局事業では、京都、大阪、富山、徳島に下期5店(通期6店)の新規出店を計画しており、前期中に出店した店舗の通期貢献も売上増に寄与しそう。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。